（別紙様式４）　(1/4)

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　ファッション工科基礎科）２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			服装造形　論Ⅰ	・衣服全般の基礎知識を習得する。 （縫合の基礎、作図基礎理論、体型観察） ・服作りの基礎となる服の構造、デザイン表現、作図方法、素材の扱い方、縫製方法を各アイテムにおいて習得する。 ・バザー作品を通し、ボランティア精神の育成と既製服としてのデザイン、縫製法、検品、販売までの流れを学習する。 ・ドレーピングの基礎知識を習得する。 （ボディについて、布の準備、基礎ドレーピング・マーキング・ドラフティング） １　基礎Ⅰ（一般知識・縫い方の基礎）　基礎縫いAミシン縫い・B手縫い ２　体型研究 身頃原型・スカート原型（1/4・実物作図）・トワル製作・試着補正・レポート ３　スカートⅠ デザイン・パターン・実物製作・レポート ４　シャツブラウスⅠ デザイン・パターン・実物製作・レポート ６　子供服 デザイン・パターン・実物製作・レポート ７　バザー作品 文化祭バザー作品実物製作・検品・販売 ８　スカートⅡ デザイン・パターン・実物製作・レポート ９　ジャケットⅠ デザイン・パターン・実物製作・レポート 10　ワンピースドレスⅠ デザイン・パターン・実物製作・レポート 11　パンツⅠ デザイン・パターン・実物製作・レポート 12　ドレーピング基礎（文化ボディ） 胸ぐせダーツのバリエーション（アームホールダーツ）	1・通年	120	4	○			○			○	
○			服装造形 デザインⅠ		1・通年	120	4			○	○			○	
○			服装造形 パターンメーキングⅠ		1・通年	120	4			○	○			○	
○			服装造形 ソーイングⅠ		1・通年	210	7			○	○			○	
○			量産技術概論・実習	アパレル製品の生産について関心を持たせ、一品作りと量産の違いについて認識させること目標とする。 実習として工業用ミシン・アイロンを主とした生産機器の安全な使用方法を習得する。 生産指示書類の見方に関する講義や特殊機器見学を行い工業生産に関する理解を深める。	1・通年	30	1	○		△	○			○	

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　ファッション工科基礎科）２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			自由研究ＩA	・服装造形の全ての細目において、各自興味を持ったテーマについて研究する。 ・各自の目標に合わせ既習細目におけるレベルの向上をはかる。 ・個々の能力に合わせて知識・技術を応用発展させ、各自の専門性を追及する。 ・発表会（展示会）を行うことにより、プレゼンテーション能力を養う。	1・前期	30	1			○	○			○	
○			自由研究ＩB		1・後期	30	1			○	○			○	
○			ファッションビジネス概論	・ファッションビジネスの基礎知識の理解 ・ファッション産業構造の把握と専門業務の把握による職種選択のための対応	1・後期	30	1	○			○			○	
○			ファッションデザイン画Ｉ	衣服と身体との関連性を理解し、構造を交えながら絵として表現する技術を学習する。 マーカーを使用した彩色表現を中心として、多様なアパレル素材の彩色方法を習得する	1・通年	60	2			○	○			○	
○			クロッキー	様々なものの見方を通じ、ものを見て描く事・表現につながる描写と楽しさを再認識する事と合わせ、個性を伸ばす為の観察力・デザインイメージを見る側に伝える基本描写能力・表現能力の習得を目的とする。	1・通年	30	1			○	○		○		
○			西洋服装史	古代から近世18世紀までは、その時代背景を踏まえ美術史や映画によって服飾を解説していく。19世紀近代以降は、パリオートクチュール・ビジネスが確立し、ファッションが産業化していく過程を解説する。20世紀以降、デザイナーの時代が始まり、合わせてデザイン史、音楽史、映画史などにも触れながら、多方面からファッション史の理解を深める。	1・通年	60	2	○			○		○		
○			服飾デザイン論Ｉ	服飾デザインにおける色彩、形態、コンポジションについての講義及び演習を通して基礎的な知識と技術を身につけ、創造力、分析力を養うことを目標とする。 レベル設定：色彩の基礎知識や配色の基礎、形態の構成要素やデザイン展開、コンポジションのセオリーについて理解し、それぞれのテーマに沿ったビジュアル表現ができる力を有する。	1・通年	60	2	○			○		○		

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　ファッション工科基礎科）２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			アパレル素材論Ⅰ	アパレル製品や各自制作物の素材に関心を持たせることを目標とし、アパレル（衣服）の構成要素である繊維、糸、布地の種類や特徴についての基礎的知識を習得させる。さらに代表的な綿、毛、絹織物の種類に関して、教材（テキスタイルファブリック）を活用しながら、糸の構造や織物組織などの特徴に着目させ理解を図る。	1・通年	60	2	○			○		○		
○			服飾手芸Ⅰ	服飾手芸全般における基礎知識を学び、それぞれの技術を基にして服飾造形及び服飾小物などに応用発展できるようにする。また、素材・テクニック・造形・色の組み合わせのバランス感覚を習得し、クリエイティブかつオリジナルな創作力を身につけることを目標とする。	1・前期	30	1			○	○			○	
○			服装解剖学Ⅰ	解剖学的な人体の構造を衣服パターンと関連づけながら理解させ、美的で機能的な衣服製作に必要な人体（骨格）に関する基礎知識を学習させる。次に人体を外観から観察し、形態やプロポーションを認識させる。	1・後期	30	1	○		△	○			○	
		○	英会話 （自由選択）	日常生活の中,またファッションに関係する事例からトピックを選び、それに関連した英語表現を学ぶ。 文法事項の復習と補充、ロール・プレイを通した会話練習、聞き取り、英作文などを組み込んだ構成とする。	1・後期	30	1	○			○			○	
○			キャリア開発Ⅰ	『将来を考える』という基本テーマを通して、自身の今後のキャリアを考え今後学ぶべきことを考えると ともに、「聴く・話す・書く力（読む）」を養うことを目的とする ・各自の適性を把握し、進路について考え将来の方向性を決める。	1・通年	30	1	○			○			○	

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　ファッション工科基礎科）２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			特別講義Ⅰ	・ファッション業界の各分野において幅広い知識・技術を修得すると共に、各自の専門性を考える動機付けを目標とする。 ・レギュラー授業で包括できない部分の専門関連分野の知識を習得する。	1・通年	30	1	○			○			○	
○			校外研修Ⅰ	美術館見学等を通して、ファッション情報に関する見聞を広げる。 諸活動を通してコミュニケーション能力の向上を目指す。	1・前期	30	1			○		○		○	
		○	コラボレーションa	・1年次では、産業とのかかわりを持つことにより、企業とその実務を知るきっかけをつくり、課外活動（コンテスト活動など）への積極的参加を推進することを目標とする。 ・個々の能力に合わせて各自の専門性を追及する。	1・後期	30	1			○	○			○	
		○	プレゼンテーションデザイン演習	服装造形の課題を使用してプレゼンテーション資料を制作。その過程を通してプレゼンテーション資料の効果的なデザイン、情報整理など制作、実際のプレゼンテーションに必要な技術、考え方を演習を交えながら学ぶ。	1・後期	30	1		○		○			○	
合計				18科目	1,110単位時間（ 37単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 最終学年の修了、卒業必須単位数の取得	１学年の学期区分	2期
履修方法： 単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること	１学期の授業期間	15週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

（別紙様式４）

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　ニットデザイン科）２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ニット概論	使用素材や作成方法など、ニット全般にわたる商品と技術について、基礎的な知識を学習する。将来、デザイナーとして必要な、商品企画や物づくりのための、幅広く体系的な見識と技量の養成を目指す。 具体的には、主として、ニットの代表的な商品である成型セーターの工業品としての「物づくり」に必要な、各段階での技術的知識及び管理方法とそのいろいろな実践的な応用方法を習得させる各論重視の教授を行う。	2・通年	60	2	○			○			○	
○			ニットアパレル論Ⅰ	ニットに関する専門職に従事することを想定して、ニット産業界の構造からニット製品の基本的な知識までを総合的に学ぶ。ニット独自の素材の糸や編地別の表現や製作上の特徴を理解したうえで、それらを有効に生かしたデザインを発想し表現する。また個性やオリジナリティなどの表現を大切にし、ニット素材による衣服作りを「デザインと製品化」の視点から教育する。2年次は編み地の特質を生かした物づくりのプロセスを習得する基礎段階とする。	2・通年	120	4	○			○			○	
○			ニットアパレル演習　デザインⅠ		2・通年	90	3		○		○			○	
○			ニットアパレル演習　実技Ⅰ		2・通年	270	9			○	○			○	
○			ニットコンピュータシステム演習基礎	工業用編機を用いたニット製品の生産システムを理解するため、横編みの編成原理と編み立て方法を学ぶ。 デザインシステムとコンピュータ編機を使用して編地を製作し、3年次の工業ニット作品制作の基礎となる知識を養う。	2・後期	30	1		○		○		○		
○			ドレーピング・服装造形ＩＡ	立体裁断を通して服作りの基本理論と技術をニットとの関連性を持たせて創造表現できるように指導する。	2・前期	60	2			○	○		○		
○			ドレーピング・服装造形ＩＢ	前期ＩAで学んだことを基本とし、シャツブラウス、ジャケットをドレーピングし、あわせてラグランスリーブの作図法、グレーディングを理解させ、ニットの各所に利用できるように指導する。	2・後期	90	3			○	○		○		

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　ニットデザイン科）２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ファッションデザイン画Ⅱ	学生のデザインに対するアイデアの可能性を様々な角度から探り、展開していきながら、ニットデザインにおけるデザイン画の表現テクニックを身につけることを大きな目標とする。基礎的な内容も取り入れ、テクニックなどを確認していきながらデザインテーマをに対して研究する事で、情報を得て展開の可能性を広げていく。発想する面白さ、デザイン表現をする楽しさを実感していく。又各種画材のテクニックを学ぶ事で基礎から応用へと進展させ、後半は独自の発想（イメージ）をより具体的に表現できる実力を身に付けて行く各自のテーマに沿った表現、展開をしていく。	2・通年	60	2			○	○		○		
○			アパレル染色演習（ニット）	染色に関する基礎的な知識と技法を、各実習を通して習得し、それをもとにアパレル制作に応用展開できる能力を養う。 さらに染色･加工の観点からテキスタイルについての理解を深めることを目標とする。	2・前期	30	1		○		○			○	
○			色彩計画Ⅰ	1年次『服飾デザイン論』で学習した色彩の知識を基礎とし、ファッションデザイン、コーディネーションにおいて計画的に行う色彩活用の技術や考え方を学習する。	2・前期	30	1	○			○		○		
○			服飾手芸Ⅱ	作品制作の上ではさまざまなレース技法が欠かせない。 鉤針では表現できない種類のレースを学び、創造力を養いニット作品に応用していく。 レースの基礎知識を身につける。	2・前期	30	1			○	○		○		
○			ニットマーチャンダイジングⅠ	ニットアパレルのマーチャンダイジング実務の指導とマイブランドの立ち上げから生産までの実務演習。ニットアパレルに特化した企画、構成、指示書作成などの演習を行い、確実な就職と即戦力になるニット企画プランナー・デザイナーを育成する。	2・後期	30	1		○		○		○		
○			英会話Ⅰ	日常生活またはファッションに関係する事例からトピックを選び、それに関連した英語表現を学ぶ。 文法事項の復習と補充、ロール・プレイを通した会話練習、聞き取り、英作文などを組み込んだ構成とする。	2・前期	30	1	○			○			○	

○			グラフィックワーク基礎	ファッションデザインの表現ツールとして、パーソナルコンピュータ及び、グラフィックソフトを使う能力を身につけると同時に、各自のデザイン能力の向上を目指す。 ･CGを使用したデザイン画の基本制作とCG活用術 ･ドロー系ソフト/Illustratorの基本操作と ･ペイント系ソフト/Photoshopでの基本操作	2・通年	60	2			○	○		○		

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　ニットデザイン科）２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			キャリア開発Ⅱ	●志望する就職先に内定するために必要な「総合的就職力」を養う ・企業職種研究を通して、仕事の面白さを考え、希望する企業や職種がイメージできるようになる ・面接練習などを通してプレゼンテーション能力が高まる ・筆記試験 ●育成プロセスとして、単なるやり方を伝えるだけでなく、意識させ、繰り返してできるようになるまで行う	2・後期	30	1			○	○		○		○
○			校外研修Ⅱ	関西方面への古美術研修を中心とした研修を実施する。仏教美術や建築物などをめぐり、デザイン性や発想力を養うことを目的とする。また、自由行動では京都市内の複数の毛糸専門店をめぐることが可能。	2・後期	30	1			○		○		○	
	○		企業・学内研修 a	企業での職場実体験を通して、職業人としての心構えを育てる。 研修を受けることにより、現在学んでいる事柄の必要性を理解し、今後の学習意欲の向上につなげていく。 企業研修先としてはアパレルメーカー・ニットアパレル商社・OEMなどの企画部門やニット製造部門など。	2・後期	30	1			○		○		○	
	○		企業・学内研修 b		2・後期	30	1			○		○		○	
		○	コラボレーション b	テーマ(大・中・小項目)、 方法(講義・演習・実験・リサーチ・グループ活動など)、 製作物、テーマ別所要コマ数、 他科目との関連性、使用パソコンソフト名・ボディ種類、見学先 概要（教育目標・レベル設定など200字程度）（職業実践専門課程認定要件に基づきＨＰ上で公開します） 　現在未定。	2・通年	30	1			○	○			○	
○			特別講義Ⅱ	専門教科に関連し、より知識の充実をはかる集中授業、および一般教養を深める集中授業。	2・通年	30	1	○			○			○	
学年合計				18科目	1,110単位時間(37単位)										

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　ニットデザイン科）２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ニット生産概論	ニット業界のリアルな現状説明や業務内容の説明、実務に近い形での製品企画、仕様書作成、利益計算などの演習。 PCを使った絵型作成の実演。就職後に少しでも企業の力となれる事を目標にしたカリキュラム。	3・通年	30	1	○			○		○		
○			ニットアパレル論Ⅱ	アパレル業界でのニットウェア専門職に従事することを想定し、ニット造形の基礎理論を基に、実際の工業製品と同じ機器を使用した物作りを主とした授業展開。商品の中のハンドニット分野とハンドニット業界の就職にも対応できる手編みの応用技術の取得も合わせて行う。クリエイティブな分野から工業製品の量産までニットの幅広いデザイン表現・知識・技術の取得を目指す。 １．コラボレーション作品 　デザイン・パターン・レポート（コラボレーションの内容により異なる） ２．求心編み作品（丸ヨーク） 　デザイン・パターン・実物制作・レポート　棒針作品 ３．カット＆リンキングジャケット（パンツ・スカート） 　デザイン・パターン・実物制作・レポート　工業機作品 ４．バザー作品（量産実習） 　デザイン・パターン・実物制作・レポート　工業機作品 ５．ハンドニット作品 　デザイン・パターン・実物制作・レポート　家庭機・ハンドニット ６．ニットマーチャンダイジング作品 　デザイン・パターン・実物制作・レポート・マイブランドプレゼン　工業機作品 ７．企業研究　ポートフォリオ 　就職先に合わせた自由研究　実物制作またはレポート形式　研究プレゼン ８．部分編み、２年編み機指導 　ハンドニットの応用・高度な技術習得	3・前期	120	4	○			○			○	
○			ニットアパレル演習　デザインⅡ		3・前期	90	3		○		○			○	
○			ニットアパレル演習　実技Ⅱ		3・前期	270	9			○	○			○	

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　ニットデザイン科）２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ニット造形演習	テーマに基づいた編地提案を通じて発想力を育てる。今後の作品製作に生かせる様、ニットのテクニックを応用発展させる。	3・前期	30	1		○		○		○		
○			ニットコンピュータシステム演習	工業横編ニットの生産システムの理解、およびコンピュータ制御横編機、デザインシステム、 特殊機器等の使用方法を習得し、ニット作品の製作を通じて、ニットアパレルの総合的理解を深める。	3・通年	180	6		○		○			○	
○			ドレーピングⅡ	２年次で学んだことを基礎とし、デザイン画から立体裁断で表現できるようにする。 伸縮素材との関連性や違いを認識させながら、創作表現できるようにする。 各アイテムが完成した際には全員の作品を並べて講評会を行い、良いものを見極める目を養う。	3・通年	60	2			○	○		○		
○			ファッションデザイン画Ⅲ	ニットの着装画・製品図を描く技術を中心に、実用的なデザイン画の表現力を習得する。 各自の進路に合わせて表現の方向性を見つけ、オリジナル性を高める。 着装クロッキーを通して身体と服との関係性とデフォルメした描き方をトレーニングする。	3・通年	60	2			○	○		○		
○			ファッションマーケティング	テーマは、起業、副業、社内起業、デジタル、多様性。 13回の授業を通して、ニットに関わる新商品やビジネス、イベント等を考え、プレゼンテーション資料を一人で作成、それぞれの生徒の、型にとらわれない個性や発想力を引き出し、そして発表する。 また、グループを作り、その中でそれぞれの得意とする能力のシェアをするなど、人と関わりながら、多様性を生かしながら仕事を組み立てることも学ぶ。 個人での起業や、中小企業で社内起業した場合の、マーケティングやビジネス、ブランディングのノウハウを学ぶ。 特にデジタルでの伝え方、売り方を重視する。	3・前期	30	1	○	△		○		○		○

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　ニットデザイン科）２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ニットマーチャンダイジングⅡ	ニットアパレルのマーチャンダイジング実務の指導と、マイブランドの立ち上げから生産までの実務演習。ニットアパレルに特化した企画、構成、指示書作成などの演習を行い、確実な就職と即戦力になるニット企画プランナー・デザイナー育成を目標とする。	3・通年	120	4	○			○		○		
○			デザイン文化	デザインの原点ともいえる西洋における時代様式の美、モダンアート表現、日本の伝統美などあらゆる分野から美とその象徴性を学ぶ。各自が知識を深めるとともに、個性ある創造性が養われることを目標とする。	3・後期	30	1	○			○		○		
		○	コラボレーションc	科の特色の科目や特論で習得した知識を活用し、企業とのコラボレーション活動やコンペティションにグループまたは個人で参加する。企業とのやり取りを通して実社会での厳しさや、やりがいを体験し就職や今後の学生生活に生かす。	3・通年	30	1			○	○		○		
○			特別講義Ⅲ	専門科目に関する学外の専門講師や企業の方による、より特化した講義を中心に場合によっては集中授業と実習を行う。学内の講師からは身につけたい他分野の技術や知識を学ぶ。社会に出る前に幅広い知識と技術を得て視野を広げる。	3・通年	60	2	○			○		○		
○			卒業研究・創作	３年間の集大成として、自由作品を創作。デザイン・素材・編地・技法・用具の選定、技術などの総合的な創作力を問う。 作品本体に加えアクセサリーからヘアメイクまで総合的にコーディネートし、音効・照明・映像などの舞台演出を考え卒業制作ショーで発表する。	3・後期	120	4			○	○		○		
学年合計				13科目	1,200単位時間（ 40単位）										
合計				49科目	3,420単位時間（ 114単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 最終学年の修了、卒業必須単位数の取得	１学年の学期区分	2期
履修方法： 単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること	１学期の授業期間	15週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。